福岡県の主な農産物の生産状況

令和元年 10 月 15 日現在

（専技情報より抜粋）

◇普通期水稲（元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

「元気つくし」は収穫が終了しました。**「ヒノヒカリ」は、収穫中で、10 月 18 日頃終了の見込み**です。**10 月下旬には「実りつくし」、「ヒヨクモチ」の順で収穫予定**です。

「ヒノヒカリ」以降の中晩生品種は、穂数が平年より少なく、台風 17 号に伴う倒伏も見られることから登熟はやや劣り、**収量は平年より低い見込み**です。倒伏した水稲は、落水して穂発芽を防止し、出穂後の積算気温と黄褐色籾比率、籾水分を確認して収穫を開始しましょう。

トビイロウンカによる坪枯れも多いです。坪枯れが発生したほ場では、対策を徹底すると共に、成熟期に達したら直ちに収穫しましょう。

縞葉枯病発生地帯では稲株のすき込み、休耕田の耕起や畦畔の雑草管理を行いましょう。

◇大豆◇

現在、子実肥大期です。６月播種分は、葉の黄化が始まっています。落葉期を迎えたら暗きょの栓を開け、排水を促しましょう。

主茎長は平年よりやや短く、**開花期以降の多雨、日照不足の影響で、莢数は平年よりやや少ない傾向です。**一部、台風 17 号により倒伏が発生し、粒肥大抑制が懸念されます。大型雑草は、汚粒発生防止や効率的に収穫作業ができるように、早めに除去しましょう。

◇イチゴ◇

生育は、早期作型では平年並、普通期作型では９月中旬～下旬の高温の影響で定植時期が遅くなり、平年より数日程度遅くなっています。

早期作型（９月 10～15 日頃定植）の出蕾は、定植日の早いものから始まっており、出荷は 11 月中下旬から始まる見込みです。高温傾向のため、遮光処理等による２番花対策を徹底しましょう。マルチ被覆時には硬くなった畝表面を中耕しましょう。摘葉後にハダニ防除を徹底します。炭疽病が多発したほ場は、秋ランナーなどを活用し親株を更新しましょう。

◇キウイフルーツ◇

「レインボーレッド」は９月 25 日から 10 月５日に収穫しました。かいよう病の発生による園地の減少等により収穫量は前年より少ないです。

「甘うぃ」は、10 月上旬から中旬にかけて収穫で、出荷量は 170t 程度と前年より多い見込みです。長雨後の高温乾燥による早期落葉、台風の影響等で一部の園地では早期に収穫しました。

「ヘイワード」は、11月上旬から収穫予定です。結実、肥大は平年並みで推移し、出荷量は前年並みの見込みですが、「甘うぃ」同様、早期落葉等の影響で、日焼け果の発生や肥大不足が懸念されます。。

収穫果実は、温度が上がらないように日陰に置きましょう。また、台風や高温乾燥等で落葉程度が激しい樹については、日焼け果、空洞果の発生に注意しましょう。

果実が濡れると、腐敗しやすくなるため、雨天日の収穫は避けましょう。

◇イチジク◇

収穫は無加温ハウスではほぼ終了し、露地では７～８割終了しました。８月は、中下旬の長雨日照不足の影響で、疫病、着色不良果等の発生が多く、出荷量は減少しました。９月は、下旬の台風の影響でビニルの破損や風傷果の発生が一部みられましたが、天候の回復により、全般的に出荷量は増加し、現在は比較的順調に推移しています。

病害虫は、９月以降ショウジョウバエ等の発生がみられ、腐敗果の発生が散見されました。腐敗、カビ、裂果対策として、適期収穫、適正な選果、予冷等鮮度保持対策を図りましょう。収穫が終了した施設栽培では、過乾燥による根傷みを防止するため潅水を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

夏季出荷作型（６～９月出荷）は終了しました。出荷量は、開花が前進化し、一部が５月出荷となったことで大きく減少、販売単価は平年並みとなりました。

秋出荷作型（10～12 月出荷）の出荷ピークは、チップバーンが発生した影響で昨年よりも 10 日ほど遅く 11 月上旬となる見込みです。

11 月出荷分は 10 月下旬から 15℃加温を行い、開花を促進させましょう。日中は換気に努め、茎葉の締まった株づくりを行います。斑点病、灰色かび病、夜蛾類の対策を徹底しましょう。

◇豚◇

９月の豚枝肉価格は、前年並みで過去５年平均ともほぼ同様の価格形成でした。豚コレラ等発生予防のため、農場の衛生管理を徹底しましょう。

鶏卵価格は、前年割れの 176 円で、過去５年平均を下回りました。供給増の傾向は解消できていません。

稲 WCS や稲わら収穫、牧草の播種作業等農作業事故に注意しましょう。